

DATA FILE



三斜晶系

名前	LABRADORITE (ラブラドライト) / 曹灰長石
化学組成	$(\text{Ca}, \text{Na})\text{Al}_2\text{Si}_2\text{O}_8$
色	無色 (ラブラドレッセンスあり)
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	完全
断面	凹凸状~貝殻状
硬度	6 ~ 6.5
比重	2.7

曹灰長石 LABRADORITE

曹灰長石そのものは無色だが、
光の干渉によってさまざまな
色 (ラブラドレッセンス) を
示すものがある。

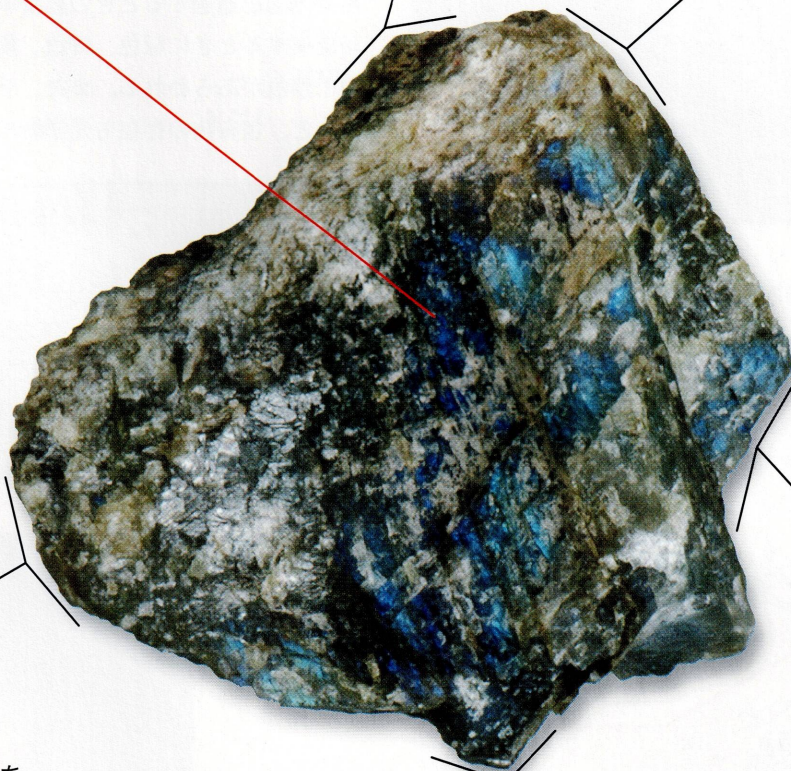
曹長石と灰長石の間に
ある組成相で、独立し
た鉱物種ではない。

虹色の輝きが一部
あらわれている曹
灰長石。

ガラスのような光沢を持ち、
素焼きの陶板にこすりつけ
ると白色の条痕を示す。

火成岩や変成岩などでつくられ、角
閃岩、安山岩、玄武岩、閃緑岩、
ノーライトなどの中に見られる。

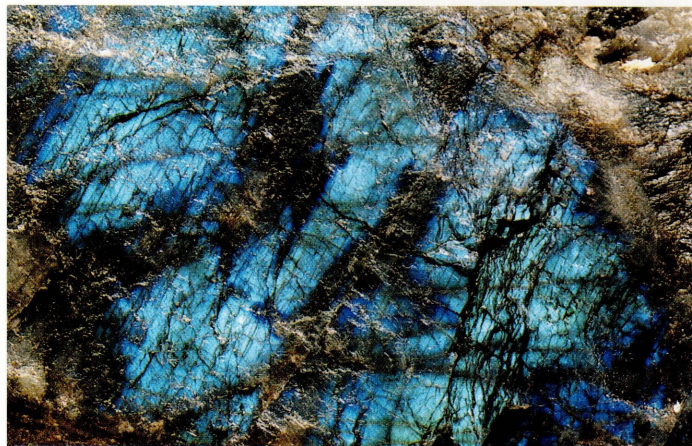
劈開は完全で、ハンマーで
たたくと凹凸状~貝殻状の
断面があらわれる。



斜長石のなかま

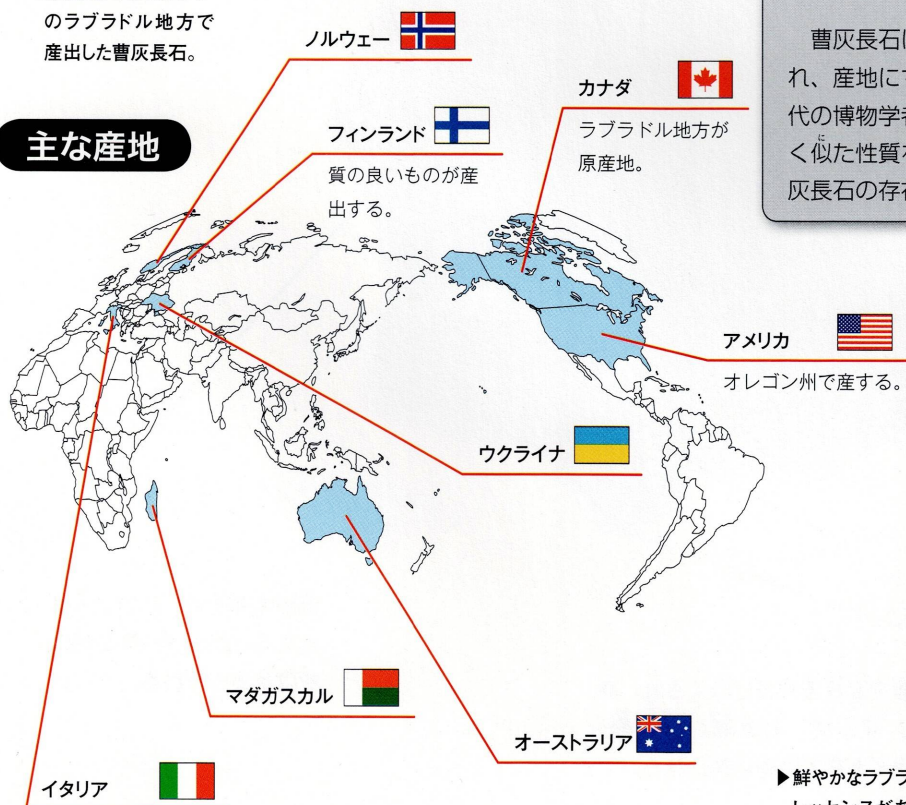
曹灰長石は、長石のなかでも斜長石のなかまに属している。斜長石のなかまには、ナトリウムを主成分として含む曹長石とカルシウムを主成分として含む灰長石があり、その間の組成相として、ナトリウムが多い順に灰曹長石、中性長石、曹灰長石、垂灰長石が存在するが、この中間4種は独立した鉱物種には分類されない。

曹灰長石が初めて発見されたのはカナダだったが、現在では質の良いものの多くがフィンランドで採掘され、そのなかでも特に鮮やかな発色があらわれたものは「スペクトライト」と呼ばれている。



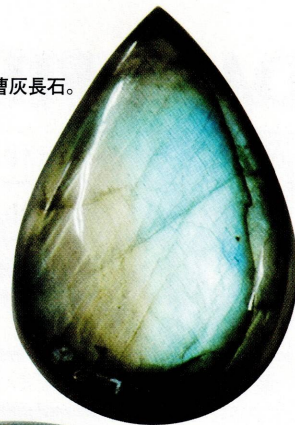
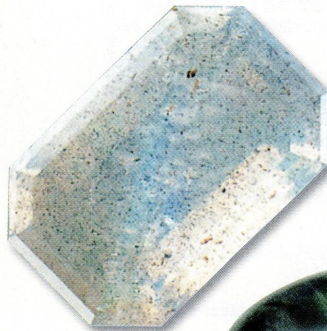
▲原産地であるカナダのラブラドル地方で産出した曹灰長石。

主な産地



▶ドロップカットが施された曹灰長石。

▼長方形カットの曹灰長石。



▶カボション・カットの曹灰長石。

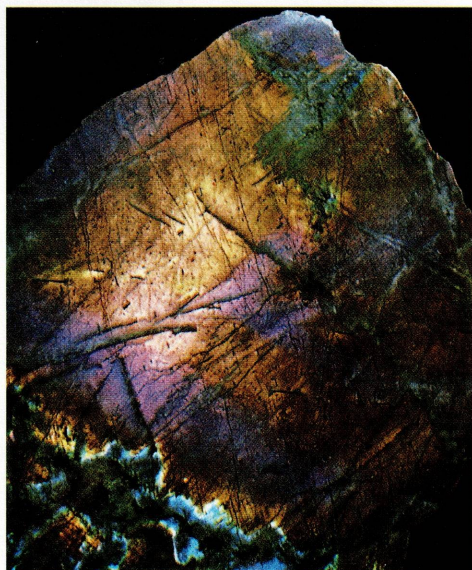


虹色の輝き

曹灰長石の特徴である光彩は「ラブラドレッセンス」と呼ばれ、宝石に加工する場合には、より輝きを生かすためにカボション・カットなどが施される。この輝きは、光が鉱物内部を通過するときの屈折率の違いによるもので、光が反射するときには緑色、青色、紫色、赤色、金色など独特の干渉色があらわれる。また、チタン鉄鉱、磁鉄鉱、ルチルなど、包有物の存在も光学的に影響を与えている。

古代に発見された可能性

曹灰長石は18世紀にカナダのラブラドル地方で発見され、産地にちなんで英名がつけられた。しかし、ローマ時代の博物学者プリニウス(23～79年)が、曹灰長石によく似た性質を持つ宝石について記述していることから、曹灰長石の存在は古代から知られていたと予測されている。



▶鮮やかなラブラドレッセンスがあらわれた曹灰長石。